（日本 GNH 学会 2024 年度大会発表　概要）　2024-09-26

塚原 淳一

『ポスト“SDGs”の重要課題 —「人間の質」改革 運動 』

直近の国連報告によると、9 年目に入った SDGs の 17 目標達成度は約 17%に留まり、さらなる注力が要請されている。その中で MDGs から続く「貧困・飢餓撲滅」や活動基盤がある「地球温暖化防止」目標などは、政府・社会・企業・人々の意識レベルに落とし込まれて進んでいるが、「平和で公正な世界」やその実現に重要な「質の高い教育」目標は、複雑な国際情勢下では達成困難とされるのか主体的活動に欠けている。

だが世界の現状は、本来「人間の本質的価値観」の上で対話し相互理解と協調に進むべきところを、「民主主義」対「権威主義」の表面的「価値観」で対立を続け、また宗教的「価値観」の違いとして相手を敵視して分断と混乱を深める一方である。さらには人類絶滅に導く核兵器の使用判断を一国のリーダーに任せたままの超大なリスクを放置し、機能不全に陥った安保理はロシアによるウクライナ戦争やイスラエルのパレスチナ攻撃を止め得ず、また SDGs に向けられるべき巨額の資金が無益な戦争のための消耗兵器に投入され、国際社会が協調して営々と築いた SDGs の成果が崩壊している。

ここにおいて世界は、自国益最重視の「国家」連合である「国連」の限界を強く認識して、「国家の壁」を超える「世界連邦」の創設運動を加速させねばならない。併せて、国家トップリーダーの「人間の質」の大切さに気づき、新しい「世界連邦政府」を良き方向へ運営する優れた「人間の質」を持つ国家リーダーを輩出すると共に、どんなに時間が掛かろうとも、世界中でこうした世の実現と発展に貢献する高い「人間の質」の市民層を構築する具体的方法を作り、その実行開始をしなければならないと考える。

他方で、民主主義国家へ歩みを進めるブータン王国の最近の姿を見ると、貧困の削減、教育の向上、保健指標の改善等で大きく進展したが、高学歴者の就業職場不足、物質的豊かさへの希求と賃金レベル差、人材の海外流出、若者の都市集中・核家族化などの新たな問題が起こっている。これらの問題の背景にブータン社会を陰で支え、GNH 思想の根幹になり、憲法にも定める「仏教精神」と「人類の普遍的価値観」の希薄化があると考えるが、これまで豊かな自然と大家族の中で人々の心身に無意識に染み込んでいた「精神」と「価値観」を、物質文明と核家族化が進む社会と人々の中に如何に復活させるかの重い課題となるであろう。

これは上述の混乱が進む世界での「人間の質」改革と共通する課題であり、かつてブータン王国が世界へ発信した GNH 思想が各国リーダー層や知識人に深い感銘を与え、その後の世界的運動 MDGs および SDGs の思想基盤形成と実現に強く影響を与えたように、再び、世界に開かれた道を進むブータン王国に相応しい「精神」と「価値観」として、新しい「人類共通の思想」と「人類共通の価値観」を創造し、世界へ向けて発信することを期待したい。

具体策として、ポスト SDGs の重要課題に位置付け、研究センターとなる国連大学の一機関を開発が進む「マインドフルネスシティ」に置いて、研究し創造してテキスト（聖典）化する。そして世界の次期国家リーダー層をそこで教育し、また世界中の人々にそれを展開し定着させる高い「人間の質」の精神的指導者（教師）を多数育成する機関の構想を提案したい。この中心役は優れた国家リーダーと仏教風土を持つブータン王国と、仏教に馴染み、東西両文明の良否を知り、宗教的に柔軟な日本が適任と考える。

この「精神」と「価値観」は、仏教の原点「釈迦思想」から再出発して「人間イエスの思想」と「人間ムハンマドの思想」のエッセンスを加え、それらを最新の科学的知見で裏付けた「人類共通の思想」と「人類共通の価値観」とする私案を持つが、詳細は本論で報告する。　以上